

## 第4章 現状・課題

### 4-1 保存活用の現状と課題

#### (1) 指定地全体の保存活用状況と課題

入徳門から学校門の間は、参観区域として、砂利敷及び中央は砂利敷状を模したコンクリート平板敷通路となっている。両側の小土手跡は河原石の縁石が残り、松並木となっている。その間の参道東側隣接地に管理事務所を設け、受付から北側については有料参観区域としている。学校門内側の堀と土塁に囲まれた孔子廟区域及び学問所区域は、現状保存及び復原整備により江戸時代中期の姿が保たれている。

西側隣接地は、史跡指定地を一部含み、大日大門通りに面する公有地は、ポケットパークとして植栽整備されている。第1次保存整備事業から30年近く経過し、復原建物・設備が老朽化し、屋根の葺替え、設備の更新等の再整備が必要なこと、第1次保存整備で未着手の部分の整備、西側隣接地の追加指定と公有化方針が課題である。



参道の整備状況



管理事務所



史跡指定地のポケットパーク整備状況①



史跡指定地のポケットパーク整備状況②

#### (2) 各構成要素等の保存活用状況と課題

地区	構成要素	保存活用状況	課題
参道区域	入徳門	平成11(1999)年度にかけて保存修理工事を実施した。史跡入口の門で、門扉は開けたまま使用。 夜間はライトアップしている。	築後100年以上経過した建物であり、門扉の開閉は行っていないが使用できる状態を維持する。

地区	構成要素	保存活用状況	課 題
参道区域	参 道	参道の両脇の小土手は、松並木として、保存されている。管理事務所受付前で、無料区域と有料参加区域を区分している。	松並木の松の成長により、樹間が狭く、参道側に伸びている木もあり、荒天時には倒木の恐れがある。
	正一位靈験 稲 荷 社	堀を埋め立て後に移転した建物であるため、不同沈下がみられ、覆屋（拝殿）も老朽化し土塁のケヤキの木に押され、傾きも生じている。史跡足利学校環境保全協会に管理を委託している。	築後200年以上が経過し、不同沈下がみられ、覆屋（拝殿）も老朽化し土塁のケヤキの木に押され、傾きも生じ、修繕方法と立地による影響が懸念される。
孔子廟区域	学 校 門	平成11(1999)～14(2002)年度にかけて保存修理工事を実施した。史跡内に入る門として開館、閉館時に門扉の開閉を行っている。夜間はライトアップしている。	建築後350年経過した建物であり、門扉を毎日使用できる状態を維持する。
	杏壇門及び 築 地 堀	門扉の開閉は行っていないが、孔子廟の入り口の門として、使用している。	建築後100年以上経過した建造物であり、開閉は行っていないが、使用できる状態を維持する。
	大 成 殿 (孔子廟)	平成23(2011)年3月11日の東日本大震災により、全体に不陸や傾きが生じる。参観は外観のみ。伝統行事「釋奠」及び「こども釋奠」をこの建物で執行している。	建築後350年経過した建物であり、安全に参観できること、「釋奠」を安心して執行できるように保つこと。
	足 利 学 校 遺蹟図書館	足利市重要文化財に指定されている。所蔵品の展示、関連図書等の閲覧場所、研究員や学芸員等の事務所として活用している。	建築後100年以上経過した建物であり、現状を維持し、展示室等として使用していくこと。
	文 庫	遺蹟図書館時代の書籍や文書を収納する非公開施設。	建築後100年以上経過した建物で、温湿度や害虫に関する管理が不十分。
	歴代席主墓 等及び学校 役人(代官) 茂木家の墓	説明板を設置。歴代席主墓等は、墓塔が地面に直にたてられている。市内小中学校の校長には、校長就任時、退職時に歴代席主墓の墓参りするという慣例があり、現在も続けられている。	歴代席主墓は、雨水がたまりやすく、墓塔の保存への影響が懸念される。
	堀・土塁 (西半部)	防火・防風のために土塁上部に植えられた常緑広葉樹のスタジイが大きく育ち、鬱蒼と茂っているが、外部との遮蔽に役立っている。	土塁上の樹木が繁茂しすぎているため、倒木や根が土塁を崩す恐れがある。
	かなふり松 (字降松)	戦国時代以降、現在の松は5代目とされる。故事に基づいて「かなふり松質問箱」を設置し、質問へ回答するようにしている	足利学校の学習方法である自学自習の伝説を伝える松で、今後も樹勢を保つ努力が必要である
	石 造 書 庫 (新文庫)	書籍等を保管する非公開施設。入口が遺蹟図書館と接続し、一体的に管理できるため利便性がよい。	築後100年近く経過する建物で、温湿度や害虫に対する管理は不十分。

地区	構成要素	保存活用状況	課 題
孔子廟区域	収 蔵 庫 (新々文庫)	国宝等貴重書を保管する非公開施設。	鉄筋コンクリート造りで二重の金庫扉のため盗難防止によいが、常時の温湿度管理ができないため、貴重書の保管に十分とはいえない。
学問所区域	方 丈	茅葺屋根の劣化が著しく、一段目の押し竹が露出している。ドレンチャー設備も老朽化し、水の出が悪くなっている。内部も畳等設備の老朽化が目立つ。内部を公開し、脇仏壇に徳川家康神位、仏間に歴代将軍の位牌を展示するほか、漢字試験の設置、論語素読等の会場としても活用している。南庭園に臨み、音声ガイダンスを設置。夜間は、ライトアップしている。	茅葺屋根及びドレンチャー設備の老朽化。内部も老朽化。内部も老朽化が目立ち、参観への影響、雨漏りや安全性が懸念される。内部利用のできるメインの建物であり、参観、体験、ロケ利用等の調整方法が課題。
	庫 裡	茅葺屋根及び板葺屋根の劣化が進んでいる。ドレンチャー設備も老朽化し、水の出が悪くなっている。内部も畳等設備の老朽化が目立つ。内部を公開。土間にかまどを復原し、板の間、居室に展示ケースを設置し、展示室として活用している。展示内容は、「足利学校の歴史」を常設とし、毎年11月には「釋奠」の執行に合わせ、企画展「釋奠」を開催。職員常駐の受付を設け、書籍の販売、書写体験の受付を行っている。夜間はライトアップしている。	茅葺屋根及び板葺屋根、ドレンチャー設備の老朽化が目立ち、参観への影響、雨漏りや安全性が懸念される。内部は、展示ケース照明のLED化が課題。
	書 院	板葺屋根の劣化が進んでいる。通常は非公開で、北廊下から内部を見られるようにしている。日曜論語素読体験や書写体験などの体験や曝書、ロケ等にも使用している。	板葺屋根の老朽化が進み、参観への影響や雨漏りが懸念される。
	衆 寮	板葺屋根及び引戸、障子等の劣化が進んでいる。土間に6畳間を備えた部屋が4つ連なる。1部屋だけ覗けるように公開し、他3部屋は、刊行本や備品等の保管施設となっている。	板葺屋根、引戸、障子等の老朽化が進み、参観、収納への影響が懸念される。
	木 小 屋	茅葺屋根の劣化が進んでいる。雑物の保管施設として活用し、内部は非公開。	茅葺屋根の老朽化が進み、参観への影響や雨漏りが懸念される。
	土 蔵	板葺屋根の劣化が進んでいる。所蔵品の収蔵施設として活用し、内部は非公開。	板葺屋根の老朽化が進み、参観への影響や雨漏りが懸念される。収蔵品の出し入れが天候や温湿度によって左右される。
	裏 門	現在は出入り口として使用はしていない。外観を参観に供している。	差し茅である程度現状を保っているが、経年劣化の進行が懸念される。
	南 庭 園	復原後の植栽管理が不十分で絵図と齟齬が生じていた。方丈の南側に面し、方丈の廊下に音声案内を設置し、参観に供している。	江戸時代中期の絵図の姿に近づけていくこと。南庭園と方丈との間に参観用通路が設けられている。
	北 庭 園	北廊下に音声案内を設置している。復原後の植栽管理が不十分で、絵図と齟齬が生じていた。	江戸時代中期の絵図の姿に近づけていくこと。

地区	構成要素	保存活用状況	課題
学問所区域	堀・土塁 (東半部)	絵図に基づき、土塁の南東隅及び北東隅に植えられたケヤキは整備後30年が経過し、伸びが著しい。	土塁北東隅、南東隅のケヤキは、倒木や根が土塁を崩す恐れがある。堀の排水の不具合が懸念される。
	隠 察 跡 ( 藤 棚 )	隠察跡の範囲は、切石で区画し、平面表示を行い、藤棚で立体表示している。藤棚下にベンチを置き、参観者の屋外休憩所、お茶会の際は会場として利用している。	平面表示と藤棚の規模が一致していない。隠察跡であることを示す説明板もないため、参観者に存在が知られていない。
	サエンバ	周囲を茶ノ木で区画した内部に野菜や花木の栽培を行っている。	内部の一部樹木が大きくなり枝が繁茂したものが、伐採又は強剪定が必要となっている。
史跡地全体	史跡内の樹木・記念樹	根拠のない樹木が多く、全体的に繁茂しすぎている。史跡内にもかかわらず記念樹や寄贈樹木も多い。	倒木や枝の落下等による建造物、遺構への影響、参観者への安全確保が懸念される。
の南堀外側区域	樹木の植栽等	松やサルスベリ、紅葉などの樹木が植えられている。	定期的な枝払い等、適切な管理が必要である。
西側隣接地 (史跡指定地)	茂右エ門蔵	現状保存され、いしだたみの会の運営によりギャラリーやチャレンジショップ等により活用されている。	建築後100年以上経過した建物であり、利活用できるよう維持していくこと。
	ポケットパーク等	芝生や樹木が植栽され、ポケットパークとして、活用している。	住宅街にあり、植栽等の適切な維持管理。



収蔵庫内部の状況



老朽化した方丈茅葺屋根



方丈内部の状況



方丈での講演会の状況



老朽化した庫裡板葺屋根の状況



復元された庫裡土間の状況



庫裡の展示状況



書院板葺屋根の劣化状況



衆寮板葺屋根の劣化状況



木小屋の茅葺屋根の劣化状況



土蔵板葺屋根の劣化状況



旧土塁残痕と思われる高まり



西土塁に繁茂するスタジイ



土塁北東隅に繁茂ケヤキ



墓石が直に地面に置かれている状況



退職する小中学校長の墓参の状況

### (3) 所蔵品の保存活用と課題

ア 現状 所蔵品のうち、蔵書が37,179冊(うち古典籍17,654冊)ある。古典籍のうち国宝等文化財指定された書籍等は、収蔵庫(新々文庫)に保管、その他の古典籍は石造書庫(新文庫)2階、一般書は石造書庫1階及び遺蹟図書館に保管する。古文書・絵図のうち年代が比較的新しいもの、一般書の一部は文庫に保管する。美術工芸品・絵図・古文書は、土蔵に保管する。所蔵品については、遺蹟図書館及び復原建物庫裡の展示スペースに、展示し、公開活用している。遺蹟図書館、復原建物庫裡とも展示のために建てられた建物ではないため、所蔵品の展示には制約が多い。

イ 課題 展示ケースの照明は、一部を除き、蛍光灯であり、所蔵品保護のため、LED化など可能な環境整備を進める必要がある。将来的には、収蔵展示施設の整備が必要。

## 4-2 参観活用業務の現状と課題

昔の足利学校がどのようなところであったのか知ってもらうため、施設を一般に公開し、体験学習等に供している。

<b>参観時間</b>	4月～9月 午前9時～午後5時(受付4時30分まで) 10月～3月 午前9時～午後4時30分(受付4時まで)
<b>休館日</b>	原則第3月曜日(祝日、振替休日のときは翌日)、12月29～31日 ※施設整備のため臨時休館することがあります。
<b>参観料金</b>	一般 420円・高校生 210円・中学生以下は無料 団体(20名以上)一般 340円・高校生 170円 ※障がい者は、手帳提示により本人及び付添1名無料 ※参観料金は、平成31(2019)年3月31日現在

## (1) 参観者数の推移

年度	人数(人)	年度	人数(人)	年度	人数(人)
平成2	155,931	12	138,176	22	180,970
3	695,506	13	165,301	23	166,873
4	258,783	14	170,393	24	184,325
5	220,106	15	168,174	25	174,483
6	191,040	16	168,635	26	175,681
7	208,052	17	164,196	27	185,528
8	194,504	18	167,320	28	215,738
9	192,048	19	165,733	29	178,064
10	168,807	20	169,405		
11	168,423	21	181,652		

※平成2年度は、12月11日の第1次保存整備事業完了後の開館以来の人数

平成2(1990)年度は12月11日より供用開始、平成3(1991)年にはNHK大河ドラマ「太平記」が放映され、足利市内に鎌倉や京都の街並みを再現したオープンセットが作られたことと足利学校の復原整備の完成が重なったことから、多くの参観者があった。その後、数年間は20万人前後の参観者があったが、平成10(1998)年以降は16～18万人程で推移していた。平成28(2016)年度は刀剣ブームで足利学校ゆかりの刀剣展示もあったことから20万人を超える参観者があった。市内の「あしかがフラワーパーク」は、藤のシーズン、晩秋から初春にかけてのイルミネーションのシーズンに多数の来場者があり、これらの来場者をどのように取り込んでいくかが課題となっている。

## (2) 多言語対応

日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語のパンフレットを用意しているほか、スマートフォンを使ったアプリによる4か国語(日本語、英語、中国語、韓国語)解説がある。館内の説明板については、日本語と英語の2か国語で表記している。

遺蹟図書館及び庫裡の展示については、日本語表示しかいないため、説明板同様、英語表記を順次追加していきたい。



4か国語対応スマートフォンアプリ



Android版



iPhone版

スマートフォンアプリのバーコード



二か国語表示の説明板

### (3) バリアフリー対応

園内はコンクリート平板舗装による園路が設けられ、バリアフリー化されている。ただ、復原建物及び遺蹟図書館は昔の建物で、入口に階段があること、内部もバリアフリーの構造になっていないことから、車いすでは上がることができない。視覚障がい者が使用する盲導犬については、施設内すべてが案内可能である。また、ボランティア団体の作成した点字パンフレットや視覚障がい者用のブレストーク用CDを用意している。復原建物や遺蹟図書館に入ることができない参観者への代替え対応の検討が課題となっている。

### (4) ライトアップ

概ね日没時刻から午後9時まで、外から見える施設である入徳門、学校門、裏門、方丈、庫裡、衆寮、木小屋、土蔵をライトアップし、参観できない夜間も足利学校の存在のアピール、夜景観光に寄与している。



コンクリート平板による史跡内舗装



ライトアップの状況

## 4-3 体験学習（論語素読、書写等）の現状と課題

### (1) 論語の素読等

足利学校で学んでいた儒学の中でも、現代にも通じる教えが多い「論語」を素読する体験学習を行っている。講師は、論語素読運営委員を委嘱して実施している。

#### ア 市内小中学生の論語素読体験

市内公立小・中学校33校の小学4年生並びに中学1年生が授業の一環として毎年必ず足利学校へ来て、論語素読を体験している。人数により方丈または書院を使用。学校行事の都合で時期が集中し、教員出身者の講師への依頼が集中することから講師を増やしていく必要がある。



市内中学校の論語素読の状況(方丈)

#### イ 日曜論語素読体験

4月中旬から11月まで、8月を除く毎週日曜日、午後1時30分～1時50分、2時20分～2時40分の2回、復原建物の書院で一般参観者向けの論語素読体験を行っている。近年、7月下旬は猛暑日が多く、11月下旬は寒い日が多く、エアコン等の設備がないため、開催時期を見直すか、天候の状況で会場の変更を検討する必要がある。

#### ウ 論語体験プログラム

団体向けの体験プログラムで、事前申し込みで実施している。講師謝礼として一団体一回2,000円を納付してもらう。人数により方丈または書院を使用。近年、市外の学校利用が増加傾向にあるが、学校ごとの対応であり、広範に周知が必要。



日曜論語素読体験の状況(書院)



## (2) 書写体験しよしゃ（平成30年度より新たに開始）

復原書院で、足利学校の学びの基本であった「書写」の体験学習を随時実施している。

ア 論語書写 論語の一節を、手本を見ながら和紙に筆ペンで書写する。

イ 元号書写 足利学校には、元号の典拠となった書籍を多数所蔵しており、「明治」、「大正」、「昭和」、「平成」の国宝書籍の典拠部分を、手本を見ながら和紙に筆ペンで書写する。新元号発表までの期間限定で実施。

※体験料金は、一般200円、高校生100円、小・中学生無料。

ウ 課題 現在筆ペンを使用しているが、筆・墨・硯の使用を選択できるようにするなどよりリアリティーを高めること、書写する内容についても検討していく。

## (3) 漢字試験

初級、中級、上級に区分されたオリジナルの漢字試験を方丈で随時体験できる。

テレビ番組などで紹介されることも多く、数年に一度、問題を全面改定している。

## (4) クイズラリー（小中学生向け）

参観する小中学生を対象に随時実施している。クイズを解きながら参観することで、親しみを持つと共に理解が深まる。ゴールは遺蹟図書館で、回答と参加賞の「足利学校卒業記念えんぴつ」を渡している。小中学校の団体見学にも好評である。長年実施していることから問題の改定も必要となっている。

## (5) 宥坐からの器

空の時は傾き、水を入れると真っすぐになる。八分目以上水を入れるとひっくり返って空になってしまう不思議な器。孔子ろこくが魯国の桓公かんこうの廟びょうに詣でた際に見たという伝説の器で、どのようなものかわからなかったが、館林市在住の針生清司はりう きよしさんが復元し、足利学校に寄贈してくれたもの。中庸ちゅうようや腹八はらはち分目の大切さを具体的に説くものとして参観者だれでもが体験することができる。



書写体験のようす



漢字試験のようす



宥坐の器の体験状況

## 4-4 イベント等での活用の現状と課題

### (1) 足利学校絵画大会

毎年、夏休み期間中に実施。市内の小中学生を対象として足利学校を訪れ建物や風景を題材として絵を描いてもらう。夏休み終了後に各学校を通して募集する。毎年250名程の応募がある。同時期に足利市観光協会で観光絵画展の募集を行っておりその画題にも利用されている。



絵画大会の絵を描くようす

## (2) 百人一首競技かるた模範試合

かつて足利学校の方丈を使って競技かるたの講座を実施していたことから、毎年11月の「足利学校さままつり」の際に実施してもらっている。市内外から30名程度の選手が出場し、多くの参観者が見学する。



百人一首競技かるた模範試合の状況

## (3) 新春書初め会

江戸時代の足利学校では、毎年、吉書初めの儀が行われていたことから、毎年1月上旬に市内の子どもを対象として方丈で書初め会を実施している。足利書道連盟の指導者のもと30名程度の参加者が書初めを楽しむ。

## (4) お茶席

足利茶華道連盟や足利商工会議所茶の湯愛好会の協力により、史跡の南庭園内、藤棚下にお茶席を設け、参観者にお茶を楽しんでいただく。毎回300名程度の方がお茶を楽しむ。

## (5) 文化財防火デー関連行事

毎年1月26日の文化財防火デー前後の日に足利学校でも関連行事を行う。教育委員会文化課の主管のもと中央消防署の協力を得て建造物等の文化財を火災から守るため、消防訓練を実施する。「近隣火災により類焼のおそれあり」という想定で史跡足利学校消防隊による通報、並びに放水訓練(ドレンチャー・放水銃・屋外消火栓)、消防自動車一台が出動し放水訓練を行う。



新春書初め会のようす



書初めの展示



お茶席のようす



自衛消防隊による放水訓練の状況

## (6) 足利学校さままつり

毎年、釋奠を行う11月23日及びその前後の数日間、史跡内と足利学校さま通り等で開催される。史跡内では南庭園内でお茶席、事務所前での漢字検定試験、方丈での百人一首競技かるた大会や足利学校さま通りの骨董市等さまざまなイベントが実施される。近年、同時期に「足利秋まつり」が開催され、足利学校周辺での催事が減っている。

**(7) 全国小学生論語かるた大会**

足利商工会議所は、創立70周年記念事業の一環として「あしかが論語名句選かるた」を制作した。小学生への論語の普及のため、平成23(2011)年より毎年、足利学校さままつの期間に史跡足利学校復原建物方丈において、全国小学生論語かるた大会を開催している。

**(8) 節分鑑年越し**

毎年、2月3日の節分に行われる。行列は入徳門前で一礼し、鑑阿寺に向かうルートとなっているため、入徳門～孔子廟の間の夜間特別公開を実施している。

**(9) 夜間公開**

栃木DESTINATIONキャンペーンの一環及び日本遺産認定三周年記念事業として平成30(2018)年4月28日(土)～5月2日(水)の5日間実施した。通常のライトアップの他、通路沿いに銘仙行灯、南庭園に和傘の灯りを配置。また、遺蹟図書館前では幻燈ガラス「孔子一代記」を映写した。市民や観光客約3,000人が来館し好評だった。定期的な実施に向けての体制整備が課題である。

**(10) セタライトダウン関連行事**

平成30(2018)年度、環境政策課と連携して、小中学生とその保護者を対象にセタライトダウン関連行事を実施した。講所にて足利学校とセタとの関係や昔の灯りについて講義をした後、方丈前に移動しライトダウンを行った。昔の電気のない生活や星座について興味を持つもので、足利学校活用の一事例である。当日は雨で星は見えなかったが、参加者には好評で、実施に協力していく。



足利学校さままつの漢字試験のようす



全国小学生論語かるた大会のようす



節分鑑年越しのようす



節分の夜間特別公開の状況



銘仙行灯の設置状況



南庭園和傘の灯り設置状況

(11) 旅番組や国内外メディアの取材・撮影及び映画やドラマの撮影等

日本遺産・日本最古の学校として、旅番組や国内外メディアの取材・撮影依頼が多く、足利学校の魅力を伝える情報発信ツールとして、積極的に協力している。昔の寺院や江戸時代のロケーションとして、映画やドラマのロケ依頼も多く、史跡管理に問題がなく、魅力を広くアピールすることが期待できるものについては、参観に支障がない範囲で、庁内関係課と協力して対応している。



足利学校内でのロケのようす①



足利学校内でのロケのようす②

4-5 講座等での活用の現状と課題

(1) 足利学校アカデミー

坂東のアカデミアと西洋に<sup>けんでん</sup>喧伝された足利学校の歴史と伝統を活かし、足利学校を生涯学習の原点の場ととらえ、著名な大学教授等による講座を行い、その価値を全国へアピールすることを目的として実施している。平成30(2018)年度は足利市生涯学習センターにて6月後半から7月前半の土日に計5回の講座を実施した。受講料は1回500円。もとは復原方丈で実施していたが、会場が狭いことから生涯学習センターを会場としている。足利学校内で開講できるように新たな講所の整備を検討していく。



足利学校アカデミーの状況

(2) 儒学等教養講座

かつて足利学校で学んでいた儒学や足利学校の歴史に関する講座を行い、生涯学習の場として足利学校を活用する講座。年間5講座各8回(「漢詩のやさしい作り方」、「史記を読む」、「漢詩文を楽しむ～文選～」)、「孟子」、「足利学校の歴史」)を実施している。受講料は1講座500円としていたが、平成31(2019)年度からは1講座1,000円に改定する。文献を読む講座は、数年間継続する必要があり、受講者が固定化する一方、会場が狭く定員を増やせないため、新規の受講者が申し込めないということもあり、新たな講所の整備を検討する必要がある。



儒学等教養講座



サマースクール(植物観察)

### (3) 足利学校サマースクール

毎年夏休み期間中、市内の小学生を対象に実施。足利学校に関連する知識を深め、親しむ機会を設けることを目的として実施。平成30(2018)年度は3講座(「足利学校で絵画」、「足利学校で植物観察」、「足利学校の歴史」)を開催し、70名が参加した。開催時期に小学生向けの事業が集中し、同じ内容の事業もあることから、平成31年度からは足利ユネスコ協会等他実施団体へ協力していくこととする。

## 4-6 伝統行事での活用の現状と課題

### (1) 釋奠(せきてん)(足利市指定民俗文化財・日本遺産構成文化財)

毎年11月23日に大成殿にて実施。孔子をはじめとする儒学の先聖・先師を祀る儀式。足利学校では、孔子と4人の高弟(がんにし・そうし・ししし・もうし)(顔子・曾子・子思子・孟子)、小野篁(足利学校の創始者と言われ、孔子廟に像がある)に肉、野菜、酒などを供える。現在の釋奠は、明治40年(1907)に作成された「足利学校遺蹟釋祭略式」に基づき執行している。

この「釋祭略式」は、足利学校でそれまで断続的に実施していた釋奠略式を基に、足利学校遺蹟管理委員のあいばともみつ相場朋厚が、東京の湯島聖堂で行われた第一回孔子祭を参考にして作成したものである。

明治40(1907)年から毎年行われ、平成19(2007)年に100年を迎えた。はじめは冬至(とうじ)の日に行っていたが、大正4(1915)年からは11月23日に行っている。教育関係者、地域代表などで構成される史跡足利学校釋奠保存委員会が主催する。釋奠記念講演会は明治42(1909)年に始まり一時中断したが、現在は席主講話並びに記念講演を実施している。



釋奠のようす



席主講話



記念講演

### (2) こども釋奠

毎年9月下旬に大成殿にて実施。史跡足利学校の伝統行事「釋奠」に子どもの時から関わることにより、足利学校への関心を持ってもらうと共に郷土愛を育み伝統文化継承の大切さを学ぶことを目的として平成26(2014)年度から実施している。

祭官は、小学5年生～中学3年生までを対象として、公募している。平成30(2018)年度から祭官経験者の高校生を募集し、盥漱(かんそう)や認定証授与などを手伝ってもらった。将来的には高校生を含めた「こども」だけで、執行できるようにしていきたい。



こども釋奠のようす

(3) 曝書

毎年9月下旬から11月下旬にかけて書院にて実施。足利学校所蔵の貴重書に風を通して防虫や防カビ効果を高めると共に、書籍の状態を点検することを目的として実施している。秋の風物詩としても定着し、実施日の問い合わせも多いことから、平成30(2018)年度から予め実施日を決め、広報して実施した。天候・湿度の状況で、予定日に実施できない日もあったが、担当職員の勤務シフト調整が可能になった。



曝書の様子

4-7 所蔵品の活用の現状と課題

所蔵品を活用して、復原庫裡内及び足利学校遺蹟図書館で展示を行っている。

平成29(2017)年度の展示公開状況は、次のとおり。

(1) 復原庫裡内での展示と課題

①常設展

「足利学校の歴史」

足利学校の起源から発掘・復原に至るまでの歴史・活動等を資料、パネル等で紹介。

②企画展

「秋季展示 釋奠—孔子とその門弟を祀る儀式—」

期間 平成29年11月3日(金)～平成29年12月3日(日)

内容 毎年11月23日に足利学校で行われる釋奠にあわせ、

関連する所蔵品を展示し、釋奠と孔子について紹介する。



復原庫裡内の展示状況

③復原庫裡内展示の課題

復原庫裡は、常に外気に曝され、展示ケースも密閉型ではないため、考古資料以外の原資料の展示は短期間でないと難しい。

(2) 遺蹟図書館での展示と課題

①「よみがえる孔子の生涯 孔子周游列国版画」展

期間 平成29年4月15日(土)～6月25日(日)

内容 現代中国人版画家の劉長青氏が、孔子の生涯を描いたシルクスクリーン版画集「孔子周遊列国」の9点を展示。

②「足利学校所蔵品から見る異界の世界」展

期間 平成29年7月1日(土)～24日(月)、9月9日(土)～10月15日(日)

内容 足利学校の所蔵品の中でも異界について取り上げている史料を選び、その中から親しみがもてるようなテーマや絵が入っている史料を中心に紹介する。



「足利学校所蔵品から見る異界の世界」展ポスター

③「刀から学ぶ足利の歴史」展

期間 平成29年7月29日(土)～8月31日(木)

内容 夏休み特別企画「國廣感謝祭～夏の陣～」連携事業として開催。

足利ゆかりの刀工の刀剣、堀川國廣関係史料、堀川國廣が足利に来た頃の庠主・三要(閑室元佑)関係史料を展示。

④「論語への誘い」展

期間 平成29年10月21日(土)～12月3日(日)

内容 孔子とその弟子たちの言行をまとめた『論語』で足利学校が所蔵する関連史料を展示。あわせて、重要文化財『論語義疏』を特別公開。



「論語への誘い」展ポスター

⑤「江戸時代の庠主」展

期間 平成29年12月9日(土)～平成30年2月25日(日)

内容 江戸時代の庠主は、第10世の龍派禪珠りゅうは ぜんじゆから最後の庠主である第23世謙堂元益けんどうげんえきまでの14人いた。史料に基づきそれぞれの庠主の事績を紹介。

⑥「特別公開 秘蔵刀剣 景國・清光・安定」

期間 平成30年2月2日(金)～2月25日(日)

内容 足利冬物語連携事業として、節分鎧年越しに合わせ「源景國」・「清光きよみつ (加州清光かしゅうきよみつ)」・「大和守安定やまどのかみやすだ」3口の刀剣を特別公開。

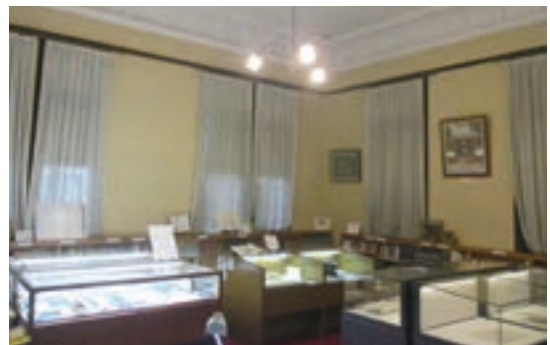
⑦「足利学校と欵器図」展

期間 平成30年3月3日(土)～6月3日(日)

内容 「欵器きき」は孔子が慢心や無理を戒めたとされる傾いた器で【中庸】の精神を伝える「宥坐之器」として、広くその名が知られる。現代の名工針生清司氏製作の「宥坐之器」をはじめ、『荀子』『孔子家語』などの古書から「欵器」を紹介する。

⑧史跡足利学校遺蹟図書館展示の課題

図書館として建てられた建物であるため、窓が大きく、壁面を利用した展示が難しい。また自然光の遮断が難しい。掛け軸や美術工芸品を展示する大型展示ケースがないため、これらの活用が困難である。



遺蹟図書館展示室の状況

(3) 所蔵品の整備と課題

所蔵品のうち傷みが著しいものや展示活用を予定するものを、毎年少しずつ修理している。平成29(2017)年度は以下2件の修理を実施した。

①書 籍 『足利学校記録』第60～61巻 虫損の修復、裏打ち等

②古文書 『宗甫事書』軸装 一幅 シミのクリーニングを行うと共に折れじわを伸ばし表具を新装、軸を太巻きとする。

③課 題 所蔵品の数量が多く、状態把握が不十分なため、曝書や閲覧、展示の際に確認し、整備するものを決めている。計画的な整備はできていない。

## 4-8 印刷物等の販売状況と課題 (( )内は単価と平成29年度販売冊数)

### (1) 印刷物の販売状況

印刷物等の販売は、史跡足利学校の価値や活動を知ってもらうために有効である。また、論語素読のテキストに使用するなど、体験学習を行う上でも有効に活用されている。中でも論語抄は、手頃な値段で論語の主要内容を知ることができることから、年間販売冊数が毎年15,000冊を超え、隠れたベストセラーとなっている。

①論語抄 (100円・15,287冊)

論語の中から、短文で孔子の意思を伝えるもの、現代生活の指標になる内容のもの等63編を選んだもの。

②かなろんご (150円・1,813冊)

小学生以下の子ども向けに論語の中から100編を選び、平仮名で記したもの。

③お父さん・お母さんと読む論語 (700円・551冊)

論語の中から親子で楽しめるものを選びまとめたもの。

④論語唐詩 (200円・350冊)

⑤ガイドブック (700円・162冊)

⑥書き下し論語 (700円・333冊)

⑦論語抄CD版 (400円・193冊)

⑧足利学校年表 (200円・63冊)

⑨足利学校展図録 (1,500円・68冊)

⑩研究紀要15号 (700円・8冊)



史跡足利学校の刊行物

## (2) 印刷物等の販売の課題

管理事務所に保管スペースがほとんどないため、販売用の印刷物のほとんどを衆寮で保管しており、衆寮を体験場所として活用できない状況。

## 4-9 ホームページやSNSによる情報発信と課題

市のホームページに専用ページを設けて発信しているほか、ツイッターを使って随時情報を発信している。ツイッターは、発信が容易で、最新の情報を発信できる。フォロワーが現在、1,600人程度のため、有効活用のためには、さらなる周知の工夫が必要である。

## 4-10 整備の現状と課題

史跡地のうち東半部については、平成2(1990)年に史跡整備が完成し、江戸時代中期の姿を取り戻した。西半部については、大成殿、学校門等江戸時代以来保護されてきた建造物が遺るほか、明治15(1882)年建築の文庫、大正4(1915)年建築の遺蹟図書館など、明治時代以降、足利学校と所蔵する貴重書を守ってきた施設がある。また、西及び北側の土塁は、大正元年に堀を埋め立て移築して構築したものであるが、その上には近隣火災からの延焼を防ぐ目的で植えられたスダジイが繁茂している。この西半部の区域についての整備が今後の課題となる。



遺蹟図書館周辺の現況



西側土塁の樹木繁茂状況

## 4-11 管理運営・体制の現状と課題

### (1) 管理運営体制の現状

#### ア 管理運営体制

##### ①組織体制

足利市教育委員会事務局―史跡足利学校事務所(課扱い)

##### ②管理基準

◎日本最古の学校「足利学校」を郷土の文化財として後世に伝えていく。(保存)

◎足利学校をまちづくりの中心に据えた文化活動の場とするとともに、歴史観光の拠点施設として参観に供していく。(利活用)

##### ③予算

一般会計(01) - 教育費(55) - 足利学校費(25)

平成30(2018)年度予算

歳入 195,365千円

歳出 193,253千円(職員給与費含む)(うち、足利学校執行分126,031千円)



## ④職員体制

史跡足利学校事務所	所長（課長級）	1名
	次長（主幹級）	1名
	主査（学芸員有資格者）	1名
	主事	3名
	研究員（特別職）	1名
	嘱託職員（足利学校学芸員）	3名
	補助職員（市OB労務職員）	1名
	補助職員（参観案内・資料整理等）	6名
	パート職員（参観案内）	5名
	シルバー職員（シルバー人材センター委託）	6名
	清掃職員（民間委託）	1名
	合計（H30.4.1現在）	29名

※上記の職員が、シフト勤務で毎日15～16名が勤務している。

## イ 保存活用に係る庁内及び関係機関・団体との意思疎通・情報共有

- ①庁内 史跡の保存に関しては、市文化課や栃木県教育委員会文化財課と密に連絡をとり情報共有を図っている。維持管理に関しては、生活環境部、都市建設部、上下水道部と密に連絡をとり支障のないよう対応している。活用に関しては、教育委員会(学校教育課、生涯学習課、文化課)、産業観光部、健康福祉部、生活環境部と連携し、事業の開催や情報発信を行っている。

周辺環境の保全や土地公有化については、平成28(2016)年より「足利学校・鏝阿寺周辺地域の土地の公有化検討委員会」(事務局・都市建設部都市計画課)が設置され、公有化すべき土地が出た場合、公有化検討委員会を開いて検討することになっている。その基本的な方針は「足利学校・鏝阿寺周辺地域の土地の公有化の基本的な方針について」に基づく。その趣旨は、「同地域はこれまで市民と行政が協働し、本市を代表する伝統的な歴史・文化が伝承する良好な景観を築きあげてきた。この良好な景観を将来に渡り維持・保全するとともに、歴史的地区に相応しいまちづくりを推進しなければならない。場合によっては、良好な景観を阻害する建造物等の建築を未然に防ぐため、土地の公有化が必要である。公有化の必要性の判断と併せ有効な事業の検討が必要であることから、基本方針を定めるもの。」としている。

中でも足利学校に隣接する南と西の区域については、「昌平・大門地区」として、次のような方針が定められている。「土地区画整理が伴わないため、公有化後の利用目的を明確にするとともに、整備にあっては経費を必要最小限にとどめポケットパークなどの暫定整備とし、スポット的利用を行うものとします。その後、公有地がまとまった場合は、民間プロポーザル等による活用の方針を検討するものとします。」このように、足利学校に隣接する南と西の区域については、利用目的を明確にした上で公有化を行い、当面はスポット的な利用を、まとまった場合には活用の方針を検討していくこととなっている。

- ②史跡足利学校釋奠保存委員会 20名の委員からなり、足利学校の伝統行事で市指定民俗文化財にも指定されている釋奠を実施し、保護継承を行っている。
- ③史跡足利学校論語素読運営委員会 小中学校の論語素読や日曜論語素読体験等、体験学習メニューの論語の素読を指導していただく講師10名からなる。



論語研究会による論語素読吟味

- ④足利学校論語研究会 論語を活用して足利学校の価値を発信する会。論語素読の会や論語素読吟味を行う。個人会員のほか、企業等の団体会員がある。
- ⑤史跡足利学校環境保全協会 足利学校及びその周辺の環境保全のため、清掃活動や花やり、稲荷社の維持を行う地域住民からなる会。
- ⑥いしだたみの会 西側隣接地の史跡指定地内にある茂右エ門蔵の管理運営・活用、地域を盛り上げる活動を行う地域住民等からなる会。
- ⑦栃木県漢詩連盟 史跡足利学校の講座の講師・受講者等が中心となって設立し、足利学校を会場に漢詩の学習等を行っている。
- ⑧(一社)足利市観光協会 史跡足利学校に隣接する観光駐車場・太平記館を運営する。10名以上の団体から予約を受け、無料で足利学校、鏝阿寺を案内する観光ボランティアガイド「観光案内人」の管理運営を行っている。
- ⑨ボランティアガイドの会 観光ボランティアガイド「観光案内人」で組織する。定期的に研修会等を実施し、案内の向上、ガイド育成にも熱心に取り組んでいる。
- ⑩足利商工会議所 まちなか公的機関等連絡会議「木曜会」を主宰し、イベント情報等の共有・情報発信を行っている。また、「足利秋まつり実行委員会」等など足利学校周辺を含む、季節ごとのまつりの実行委員会を主宰している。
- ⑪(公財)中村元東方研究所・東方学院(東京都千代田区) 第1次保存整備終了後の初代席主・中村元先生が設立した研究教育機関で、足利学校アカデミーの講師派遣等相互交流を行っている。
- ⑫中村元記念館(島根県松江市) 平成26(2014)年11月に「史跡足利学校と中村元記念館の連携に関する協定書」を締結、2代席主・前田専學氏が館長を務め、情報発信等相互交流を行っている。
- ⑬(公財)斯文会(東京都千代田区) 湯島聖堂の指定管理団体。儒学を中心とする各種講座を行っている。足利学校アカデミーの講師派遣等相互交流を行っている。



環境保全協会による稲荷社の祭礼

## (2) 管理運営体制の課題

### ア 組織的な課題

史跡足利学校事務所は、足利市教育委員会事務局内の1課として、史跡及び所蔵品の維持管理・活用を行っている。文化財保護や学校教育ならびに観光など市役所各課との連携、普及啓発事業における迅速な対応ができる等の長所がある。一方で、市会計のため、参観料徴収等で柔軟な対応ができない等の短所もある。活用の一方策でもある世界遺産登録への取り組みや日本遺産の連携は、文化課が担当しており、史跡足利学校事務所の関りを検討する必要がある。

### イ ガイダンス施設の課題

ガイダンス施設(管理事務所(隠寮))は、鉄筋コンクリート造、瓦葺、平屋、地下1階建てで360.98㎡。地上階は、受付・事務所、席主室、客間、ビデオルーム、講所、トイレ(男女各1、多目的トイレ1)、更衣室・倉庫からなる。地下には、電気室及びドレンチャー・放水銃のポンプ室がある。

現況では、史跡隣接地にガイダンス施設を建てられる場所はないが、将来、入徳門と学校門間の参道西側隣接地を公有化することにより、大人数に対応できるビデオルーム、100人程度が受講できる講所、受付スペース、参観者の休憩所並びに国宝など貴重書籍の収蔵、展示機能を備えたガイダンス施設を整備していきたい。

- ①参観者受付 事務所のレジ3台で行うが、ゴールデンウィークなどの繁忙期は、受付を待つ長い行列ができる。自動券売機の導入も検討しているが、設置場所と参観券確認場所の導線を検討する必要がある。Suica等交通系電子マネーによる支払いは年々増加しているが、利用端末が1台しかない。他の電子マネーによる支払い方法の導入を検討している。受付では刊行物の販売を行っているが、土産品やグッズの販売は人員及びスペース不足から行っていない。

- ②ビデオルーム 案内ビデオを上映するが、30人程しか入れないため、大型バスで訪れた団体では、入りきれないことも多い。
- ③講所 講座等のための講所があるが、定員は30人である。定員100人の足利学校アカデミーは開催することができない。また、会議室としても利用しているが、20人程度の会議でも会議場としての形式をとるには、スペースが不足している。
- ④飲食スペース 史跡内は飲食禁止としており、ビデオルームに飲料自販機を設置しているのみで、飲食するスペースがない。弁当や周辺店舗で購入した物を飲食する場合は、まちなか遊学館を紹介している。



ビデオルームの状況



講所での受講状況

## 第5章 大綱・基本方針

### 5-1 大綱

前章までに記した史跡足利学校跡の保存活用に関する現状をふまえ、史跡の望ましい将来像として以下のような大綱を定める。

#### (全体)

史跡足利学校跡は国民共有の財産であり、市民が「学校さま」とよび崇敬するシンボルでもある。史跡足利学校跡を良好な状態で将来に引き継ぐとともに、まちづくりに寄与するため保存活用をはかる。

#### (保存)

- ・遺構の保存を大前提とする。
- ・国宝漢籍等所蔵文化財の保存に万全を期す。
- ・釋奠等の伝統行事を着実に継承する。

#### (活用)

- ・所蔵文化財の積極的な活用を図る。
- ・足利学校の価値やイメージを高めるよう努力する。
- ・観光との連携を図る。
- ・教育施設として、学校教育、生涯学習との連動性を高め、講座や体験メニューの充実を図る。
- ・国内外の参観者に対応できる設備を整える。

#### (整備)

- ・史跡内にある建造物等について、適切な維持管理を行う。
- ・史跡内の植栽について、適切に維持管理する。  
(運営体制及び連携)
- ・運営体制は、今までどおり市直営とする。
- ・市内外の関連施設、市民等との連携、協働を促進する。